



子どもの命を守る支援について
性別に関係なく選べる制服の導入について
いちこの会 田中 ひろこ

問 親から虐待を受けて子どもが亡くなる事件が続いています。子どもが生まれ、誰からも支援を受けられず孤立している中で、虐待が起きることが本当に多いのです。

江戸川区は虐待予防対策として、ゼロ歳児家庭への無料の家事支援事業を5400万円の予算で開始します。区と提携する家事支援業者が家庭を訪問し、食事の支度や掃除、買い物、病院の付き添いなどを行い、申し込みもスマホで手軽にできる仕組みで、年間利用数は千世帯を見込んでいます。生れた子どもに寄り添って訪問することによって、虐待や育児不安などいろいろなことが分かってくるということです。このような取り組みへの見解を伺います。

答（市長） 育児に悩んでの虐待は昔からありましたが、今は、育児を放棄して遊びに行つて起きた事件などもあります。真に困った方や精神的に悩んだ方には行政が対応しますが、これからはどこまで行政がやるかという問題であり、育児放棄に対しては、手伝って何とかするのではなく、子どもを一時保護しなければ命が危ないと思います。

問 中学生の保護者から「女子はスカートをはかなければならず、生理の時など体が冷えて体調が悪くなる。どうにかならないか」と相談を受けました。今は、男女差をつける風潮がなくなり、多くの女性がスラックスをはいています。学校でもLGBTへの配慮が求められ、スカートに違和感を感じる子どもへの配慮も必要になっています。

全国の自治体では女子の制服にスラックスを導入する動きが広がっています。市内では制服カタログにスラックスを案内する学校も1校ありますが、これをどう評価していますか。

答（教育長） これからは男性用の制服、女性用の制服ではなく、AかBの制服を選ぶような形で進めるべきだと考えています。制服の検討は、保護者負担経費検討委員会の中でやり取りをしながら進めていきたいと思います。



学校教育環境の変化への
対応状況と課題について
創志会 市川 洋一

問 平成29年に改訂された小中学校の学習指導要領が間もなく全面実施されますが、見直し項目や授業時数の増加などについて、どのように調整しているのか伺います。

答（教育部次長） 子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善が求められています。教員全員で話し合い、地域と連携しながら教育効果を上げる体制を確立するために、子どもたちが新たに取り組むプログラミング教育の必修化、小学校5・6年生の外国語教科化、小中学校での道徳の教科化などについて、数年間かけて計画的に準備を進めています。例えば、小中一貫教育やコミュニケーションスキルは全校に導入され、外国語の教科化に向けた授業は、他市に先駆け1年前倒しで先行実施します。

問 学校を取り巻く環境は、社会的な要請などから変化していますが、対応せざるを得ない状況です。スマートフォン校内への持ち込みやゲーム遊びの是非、児童虐待やDVの増加、SNS上でのいじめ、部活動外部指導者の活用などの課題をどう受け止め、改善しているのか伺います。

答（教育部次長） 課題に応じて、学校と市教委が情報共有しながら協議し、スピード感をもって対応しています。

問 以上の点から先生方の業務量は増加の一途と聞いています。業務量の増加をどのように評価し、働き方改革が求めるその平準化について、どう対策をとるのか伺います。

答（教育長） 国全体が働き方改革の方向に向かっていますが、学習指導要領の改訂が教員の負担にならないよう数年前から準備をしています。また、学校に補助指導員や介助員など年間3億円以上の人的支援や校務支援システムの導入をしており、さらに健康管理情報をデータ化することで事務負担の軽減を図り、子どもたちのために定められた教育の実践を、しっかりとやり遂げたいと思っています。

その他の質問

・自治会等の地域福祉のあり方と今後について



今後の中学校給食のあり方の
検討について
日本共産党 佐々木 弘

問 現在、東柏ヶ谷小学校1校で設置、運営している自校調理場における200食ほどの調理能力の余剰分を活用すれば、近隣の柏ヶ谷中学校などに給食を提供することも比較的経費をかけずにすぐに実施できると考えますが、見解を伺います。

答（教育部次長） 東柏ヶ谷小学校の単独調理場については、外部への配送を考慮していないため、外部に給食を提供するには、施設の改修が必要となります。従いまして、調理能力の余剰分を活用して中学校給食を先行実施するというのではなく、まずは全体的な給食のあり方の議論を行った上で、その活用についての方向性を示していきたいと考えています。

問 今後、人口増により児童生徒が増えることが明確で、学校施設の増築が必要となる今泉中学校区の学校給食のあり方に関しては、特に重点的に検討し、できることから着実に推進する必要があると考えますが、見解を伺います。

答（教育長） 今回指摘された東柏ヶ谷地区や今泉地区などに限っては、教育委員会内部の検討では、さまざまな方策と案が出ているところですが、今の段階で判断すべきではないと考えています。現時点では、今後設置する学校給食検討委員会で行われる議論や子ども・保護者などへのアンケート実施がこれからで、結果などがまだ分からない状況なので、必要に応じて判断しながら進めたいと考えます。今提案いただいた中学校給食については、方策の一つとして考えています。

その他の質問

・市立図書館のあり方について
・今後の下水道事業および水道事業について

